

ウポポイ
NATIONAL AINU MUSEUM and PARK
民族共生象徴空間令和 5 年 6 月 30 日
北海道開発局
小樽開発建設部

道路施設を活用した中継輸送実証実験を全道に拡大します！

～「生産空間」の暮らしと産業を支える物流の維持に向けて～

北海道開発局は、令和4年度まで実施した道の駅での実証実験において、一定の成果を確認できたことから、「生産空間」※を支える物流のサービス水準確保を目的に、全道で実証実験を行います。

■実証実験のポイント

令和4年度の調査により、中継拠点としての配置ニーズが高いエリアの絞り込みを行った(別紙1)。これらのエリアを対象に、

- ①過年度実証実験を行った「道の駅」以外の道路施設(除雪ステーション、駐車帯等)も対象とした実証実験を実施
- ②地方部の中継拠点から広域に分散する配送エリア内各地への輸送の効率化に関する実証実験を実施

■実証実験の内容

- ・後志地域における道路施設を活用した輸送の効率化実証実験(別紙2)

※本実験は「北海道開発局とヤマト運輸株式会社との北海道の生産空間の維持・発展に資する連携協定」に基づき実施(<https://www.hkd.mlit.go.jp/ky/release/slo5pa0000050th-att/slo5pa000000bp12.pdf>)

■今後の実証実験予定(令和5年6月時点)

- ・オホーツク地域や道北地域においても道路施設等を活用した実証実験を実施予定
- ※実証実験時期は令和5年秋頃を予定

<これまでの経緯>

生産空間の維持・発展を目指し、地域課題の解決に向け3つのモデル圏域で先導的取組を推進し、名寄モデル圏域において、最大の地域課題である持続可能な物流システム構築に向け、圏域の関係者・物流事業者と連携して中継輸送等の実証実験に取り組み、物流のサービス水準確保の効果を確認するとともに、生産空間における持続可能な物流システムの実装に向けた仕組みづくりの検討を行いました。

※昨年度までの取組状況

<https://www.hkd.mlit.go.jp/ky/release/slo5pa0000010y86-att/slo5pa0000011t18.pdf>

※「生産空間」については、以下 URL(北海道開発局ホームページ)をご覧ください。

<https://www.hkd.mlit.go.jp/ky/ki/keikaku/splaat0000013gzk-att/splaat0000013h6g.pdf>

※物流システムの実装に関する調査について

<https://www.hkd.mlit.go.jp/ky/ki/chousa/u23dsn000001rud-att/slo5pa0000012sjc.pdf>

今後、本実証実験の結果については「共同輸送・中継輸送実装研究会」にも共有し、連携しながら将来的な実装に向けた検討を進めていきます。(<https://www.hkd.mlit.go.jp/ky/release/slo5pa0000010y86-att/slo5pa00000chousei.pdf>)

【全般に関する問合せ】国土交通省 北海道開発局 建設部 道路計画課 電話(代表)011-709-2311

伊藤 典弘(内線5845)、角張 弘幸(内線5958)

【実証実験に関する問合せ】

国土交通省 北海道開発局 小樽開発建設部 道路計画課 電話0134-23-5136

九筈 英司(内線351)、坂ノ上 有紀(内線373)

北海道開発局ホームページアドレス <https://www.hkd.mlit.go.jp/>

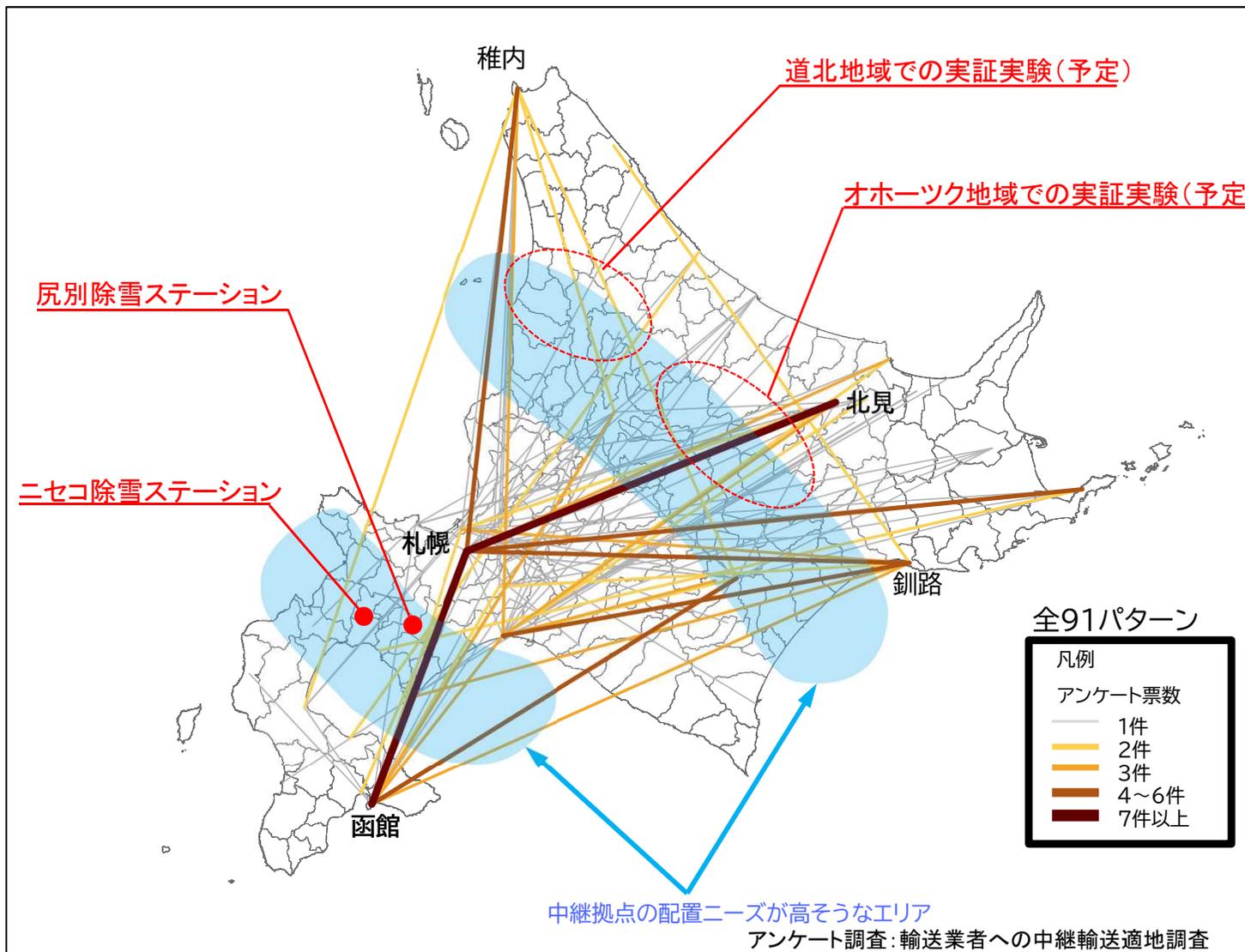


中継輸送ニーズの調査結果と中継輸送拠点の配置検討

令和4年度に道内の物流事業者※1を対象に実施したアンケート(回答数N=212件)より、将来的に中継輸送を実施したいODパターン(市町村間における輸送OD)は、以下に示す91パターンを確認。

このうち、札幌―北見、札幌―函館等はアンケート票数が多くなっており、北海道内の物流事業者の主要な中継輸送ODパターンと考えられる。この動線上の中間に立地するエリアが中継拠点の配置ニーズが高そうなエリアと考えられ、このエリアに立地する道路施設(道の駅、駐車帯、SAPA、除雪ステーション等)を対象に中継輸送拠点候補箇所を検討。

※1:貨物自動車運送業法による許認可を所有した道内に営業所のあるトラック事業者(4,792社)



※赤字箇所は令和5年度に実証実験を予定箇所

後志地域での中継輸送実証実験（除雪ステーション活用の例）

【課題・目的】 地方部は1つの中継拠点で広域な地域をカバーしており、輸送が非効率となっている。
地方部の中継拠点から配送エリア内各地への輸送を効率化することを目的とする。

(中継拠点の機能)

- ①都市間の輸送を中継する機能
- ②地方部の中継拠点から配送エリア内各地への輸送を中継する機能←今回の実証実験での着眼点

【実証実験概要】 道路施設（除雪ステーション）を中継拠点として活用することにより、都市間（千歳⇄倶知安）を輸送する大型トレーラーから後志地域内（中継拠点⇄各市町村）を輸送する小型トラックに荷物を積替える中継拠点を、現状の1箇所から3箇所に増設。

【期間】 令和5年7月3日(月)～令和6年3月29日(金)の平日

【場所】 ニセコ除雪ステーション、尻別除雪ステーション

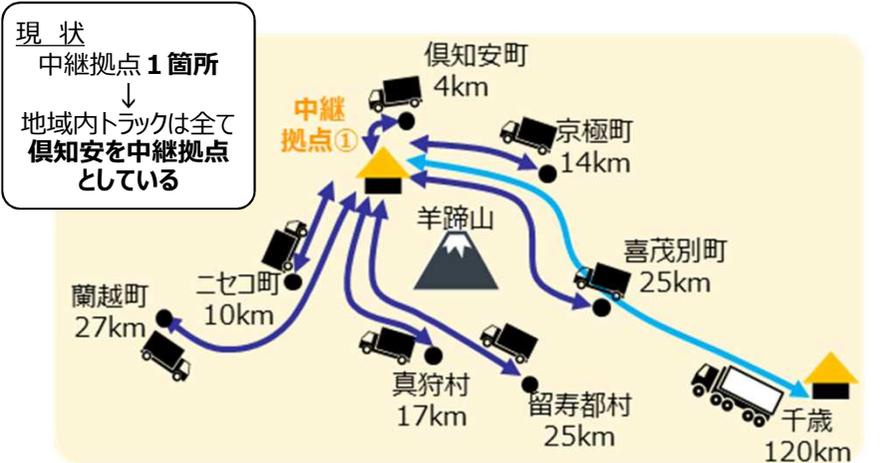
【効果検証】

除雪ステーションの活用による、ドライバーの労働時間、輸送費用、環境負荷の変化等を把握

<後志地域の物流中継地点>



実証実験のイメージ



現状
中継拠点1箇所
↓
地域内トラックは全て倶知安を中継拠点としている

○配送距離概算

| | |
|----------|--------|
| 現状(片道) | |
| 都市間トレーラー | 約120km |
| 地域内トラック | 約122km |
| 合計 | 約242km |

効率化



実験時
中継拠点3箇所
↓
地域内トラックは最寄中継拠点を活用

| | |
|------------|--------|
| 実験時(片道) 想定 | |
| 都市間トレーラー | 約130km |
| 地域内トラック | 約46km |
| 合計 | 約176km |

凡例

- 千歳 都市間トレーラー 移動経路・距離 (千歳→中継拠点)
- 町・村 地域内トラック 移動経路・距離 (各町村→中継拠点)
- 従来の拠点 (倶知安および千歳)
- 中継拠点 除雪ST (ニセコおよび尻別)

本実証実験は「北海道開発局とヤマト運輸株式会社との北海道の生産空間の維持発展に資する連携協定」に基づき実施。